



「湊川隧道保存友の会」の 皆様へ

兵庫県神戸県民局長 砂川 静壽

神戸県民局では、「神戸地域ビジョン」に基づき県政を進めており、この中で、人々が集い、喜びと感動が共有できる「楽しいまち・神戸」を目指しています。「湊川隧道保存友の会」では、すでに湊川隧道を舞台とし、「楽しいまち・神戸」の実現にご尽力いただきしております。深く感謝しております。

昨年度は、湊川隧道の公開としては初の試みである「湊川隧道定期一般公開事業」として、「友の会」の皆様と委託契約を結び、年10回の一般公開、イベントとして「新湊川まつり」、「ミニ・コンサート」を開催していただきました。

この一般公開では、年間を通して1,400人もの見学者に来ていただきました。湊川隧道の見学者は毎年増え続けており、ひとえに「友の会」の皆様の地道な活動の成果であると感謝申し上げます。

10月1日に「新湊川を守り育てる会」の皆様と共に開催していただきました「新湊川まつり」では、特に多くの参加者があり、途中で雨が降りましたが、地域の皆様の活力により大いに盛り上りました。

また、3月17日に行われたミニ・コンサートは、隧道のもつ非日常的な雰囲気と音響空間が絶妙なハーモニーとなり、その時、その場所でしか感じることのできない、まさしく生演奏ならではの醍醐味がありました。

最近、兵庫県では、県内のいろんな施設を映画等のロケ地利用してもらうため、プロモーションを行っており、湊川隧道でも、テレビドラマ、映画、音楽ビデオの撮影が行われました。ご存知の通り湊川隧道は、優れた歴史的遺産であり、その技法や意匠は非常に評価が高く、その空間も日常では目にすることのできない雰囲気があり、これが映像関係者の興味を深く引き付けたのだと思われます。湊川隧道の新たな活用方法を見出すきっかけになると共に、多くの人に知っていただくことに大いに効果があると思っております。

このように、「楽しいまち・神戸」の実現に寄与している湊川隧道ですが、将来にわたり隧道の利活用の促進を図るためにも、今後とも「友の会」の活発な活動に期待申し上げますと共に、会の発展と会員の皆様のますますのご活躍を祈念いたしましてご挨拶とします。

平成18年度の主な行事記録

！平成18年3月18日(土) 総会・講演会

場 所：新湊川河川防災ステーション内（新湊川ふれあい会館）

内 容：演題 「岩盤内地下空間における新しい芸術と音楽」

講師 櫻井 春輔氏
(財)建設工学研究所 理事長)

参加者：約70名

地下空間は人類に残された貴重なニューフロンティア空間であり、

地下空間はもっと積極的に利用されて当然であろう。地下空間の最

も大きな特徴は外界との遮断性と閉鎖性であり、岩盤内の地下は神秘的かつ宗教的な空間である。

地下で音楽を聞くと、低音が心地よく響くことが分かる。

音楽が人の感性に訴えるものであるなら、音楽を聞く空間そのものが人の心を打つとき、そこに新しいアート創造の可能性も夢ではないように思える。アートはアーティストと、それを鑑賞する観客の双方で作り出すものである限り、観客がもつ心理的な感性がアート創造のために、大きな役割を果たしているとしたら、地下空間は観客の深層心理に何かを訴える十分な可能性を有する空間である。

ユング心理学から考えると、全てを包み込む母胎回帰と暗い影の持つ死のイメージが地下空間にはある。美と恐怖、両方を備えるが故に地下空間は人を引きつける。

新しい文化を創造するためには人類は常にニューフロンティア空間を必要としてきた。地下空間の利用は今後ますます活発になるであろう。



！平成18年7月15日(土) 総会・講演会

場 所：新湊川河川防災ステーション内（新湊川ふれあい会館）

内 容：演題 「鉄道トンネルの文化史～それは神戸からはじまった～」

講師 小野田 滋氏
(鉄道総合技術研究所 情報管理部 主査)

参加者：約70名

日本最初の鉄道トンネルは天井川の下に3本掘られた。

石屋川（1871年）、芦屋川トンネル（1873年）、住吉川トン

ネル（1874年）の3本でイギリス人技師による土木技術指導で完成した。1880年に開業した京都一大津間の逢坂山トンネルでは、生野銀山の鉱夫の応援を得て、日本人のみの手によって完成。日本の伝統的な鉱山技術と西洋流のトンネル技術が融合して、国産化に成功。以後、トンネル工事は日本人の手によって行われるようになった。

トンネル工事には、さまざまな伝承がある。特にトンネル工事で禁忌（タブー）とされる事柄は、これまで非科学的な迷信と思われていたが、現在ではむしろ、危険なトンネル工事の安全管理対策として広まっているのではないかとする説が有力である。「女性がトンネルに入ると、山の神（女性の神様）が嫉妬して山が崩れる」「トンネル内で口笛を吹くと山を呼ぶ（山が崩れる）」などである。また、トンネル十訓と呼ばれるトンネル工事の「極意」を伝える言い伝えもあり、かつてはトンネル工事現場の神棚のあたりに掲げられ、安全管理・施工管理の指針となっていた。

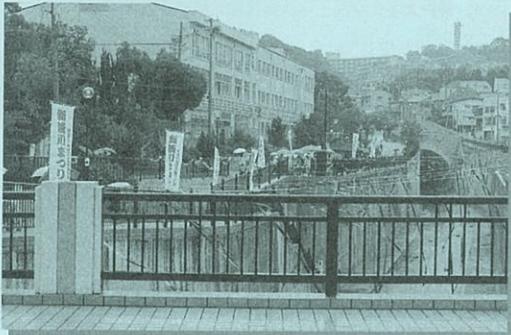
困難な自然条件を克服し、危険を乗り越えて構造物を完成させるトンネル掘りたちのドラマは、小説や映画の題材として、外国では子供向けの絵本にまでもしばしばとりあげられている。



主な行事報告

第2回新湊川まつり

平成18年10月1日（日）に、新湊川を守り育てる会主催の「第2回新湊川まつり」が開催されました。スタンプラリーやサイコロゲームなどの遊戯、焼きそばなどの売店が出店して、熊野橋から東山小学校までの新湊川沿いの緑道は、参加された約650名の人たちで賑わいました。また、新湊川にはカラフルな吹流しが設置されました。



トンネル写真展・講演会

第2回新湊川まつりの開催に合わせて、湊川隧道保存友の会主催により土木写真家の西山芳一氏の「トンネル写真展・講演会」を東山小学校講堂で開催しました。

あいにく開催前から雨が降り始めましたが、写真展には59名、講演会には30名が参加されました。

土木写真家：西山 芳一

トンネル写真展・講演会

トンネル写真展

日時：10月1日（日）AM10:00～PM3:00
会場：神戸市立東山小学校講堂

講演会 西山芳一：「トンネルを撮る」

日時：10月1日（日）PM1:00～2:30
会場：神戸市立東山小学校講堂

参加者が多い場合は立っていたり、入場をお断りすることもあります。あらかじめご承知おき下さい。

〈西山芳一氏のプロフィール〉

1952年 東京都生まれ
1975年 東京造形大学写真学科卒業
博報堂、東急エージェンシーを経てフリー。
土木写真家に転身。
有限会社キャンプ代表。
写真集「港湾遺産」、「タウシュベツ」、「水辺の土木」、「トンネル」等。「タウシュベツ」は土木学会出版文化賞（平成14年度）を受賞。

震災後、拡幅工事中の湊川隧道（撮影：西山芳一）

ミニコンサート 「水音のメッセージー湊川隧道からー」

平成19年3月17日（土）に湊川隧道保存友の会主催のミニコンサートが、開催されました。ピアノやバイオリンの音に合わせて、約200個の発光ダイオードが、青や黄色などに光り、約260名の来場者は音と光のコラボレーションを楽しみました。

【メッセージ】



湊川隧道に入って思ったこと

中田眞城子（エディトリアルコーディネータ 兼
神戸大学大学院工学研究科電気電子工学専攻塙本研究室 コーディネータ）

幼い頃、住んでいた家には蔵があった。たまにお仕置きとして閉じ込められた。分厚い扉で外と遮断されたが、あまり怖くはなかった。というより叱られ終わることにほっとしていた。蔵の上部にある窓から長い光の帯が差し込んでいて、その光の中にきらきらと雪のように舞う埃を眺める静かで穏やかな時間が好きだった。

車やバスに乗るのは酔うので苦手だった。でも、道中のトンネルは好きだった。持っていた赤い水筒は、トンネルの照明で茶色の物体に変身した。擦ってみたり、手で覆って覗いているうちにトンネルの外に出て、手の中には元の水筒があった。その変化の瞬間が好きで、

わかっていても毎回儀式のように水筒を見つめ続けた。蔵にもトンネルにも別の世界が広がっていた。本来はちゃんと目的があって作られた空間でありながら、神秘性や恐怖や静寂などのために存在しているように感じた。

湊川隧道にはコンサートの準備のためにはじめて足を踏み入れた。約100年前の空洞はすでに目的を失っているはずなのに、堂々と存在感を放っていた。ひんやりとしているのに心身が包まれるような暖かさがあった。振り返ると外の光がまばゆくきらめいて、幼い頃の記憶がよみがえって嬉しかった。トンネルに誰でもいつでも入れるようになればと思う。何かを学ぶためにではない。なんとなく皮膚を通して、あるいは直接脳になにかを感じればそれでいいと思う。人にはそういうひとときが必要なのだ。

100年前というのは歴史的には新しいのかもしれない。しかし、はるか未来の視点で考えれば、高松塙古墳とさほど変わらないはず。ほとんどの家に蔵という存在がなくなった今、トンネルが本来の目的とは別に、身近にある非日常な空間として存在していくからだと思う。

「湊川隧道」との出会い 若尾久美（ピアニスト、バイオリニスト）

「湊川隧道でコンサートをしてみませんか？」とお誘いを受けたのはこの冬のことだった。「みなとがわ」とはどこの川だろう？ 「ついどう」とはなんだろう？ 「とにかく見に行ってみましょう！」ふたたび声をかけられ、見に行くことになった。

「湊川公園」駅で落ち合い「隧道」入り口まで歩く。道をはさんで商店街を右に見たところで、川らしきものにぶつかる。川らしきもの？ 橋があるのでそう判断する。橋の手前を左へ入り、覗きこむとコンクリートで固められた両壁の下に水が見える。これが「湊川」らしい。

道の行き止まりに立派な扉が見えて、「隧道」入り口へ到着。中へ踏み込むとそこは「湊川」に関する資料が展示されていてミニギャラリーのようだ。

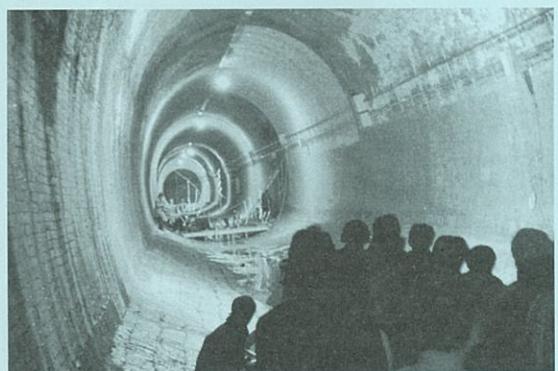
ふと、立ち止まって前方を見る。そこには突然、未知の空間が…天井に光が灯され、その輝きが幾重にも幾重にも連なってタイムトンネルのようだ。

奥へ進むと外界の音がなくなり、水の音が聞こえる。レンガの天井から水が落ちている。水溜りを飛び越えながら水音を聞く。響きはどこまでも追っかけてくる。音がトンネル内を飛び交っている。それはチョウチョのように動き、舞い、飛び交って生きているかのようだ。

トンネルの一番奥で鳩に出会う。「バタバタバタ…」、突然の侵入者（わたしたち）に驚き羽ばたく。羽の音は増幅されて巨大な羽を持つトンネル鳥になる。絶滅鳥類が生息していたかのように。

この動く音のサウンドスケープを聴くうちに時が経ち、私たちはすっかりトンネルを出ることを忘れてしまっていた。

（後日ここでコンサートをさせてもらったのは言うまでもない。）



神戸県民局からのお知らせ

隧道入り口モニュメントについて

湊川隧道は現在のところ、月に1度の定期一般公開を行っておりますが、公開時以外にも地域の皆様や、隧道入り口前を通行される方々に親しんでいただこうと、平成19年3月に隧道入り口付近に「要石」および「レンガ・コア」をモニュメントとして設置しました。

「要石」は隧道呑口側坊門のアーチ頂部に設置されていたものです。「楔（くさび）石」「キーストーン」とも呼ばれており、大きさは縦107cm、横60から80cm、奥行き90cmで、重さは1,700kgあります。この「要石」は明治期に完成した湊川隧道の姿を伝える貴重な石材です。

「レンガ・コア」は新湊川トンネル建設において湊川隧道のレンガの壁に穴を開ける必要があったため、ボーリング機械で採取したもので、レンガとレンガをモルタルで接着している様子や、イギリス積みであることがわかります。

設置したモニュメントは人目を引き、湊川隧道のさらなる活性化に役立てばよいと考えております。

神戸県民局神戸土木事務所



イギリス積み(縦断方向)

地域の紹介②

兵庫区北西部まちづくり協議会の設立

兵庫区北西部まちづくり協議会 会長 佐藤圭吾

本会は、平成19年2月24日皆様のご協力により設立いたしました。

平成18年9月より、夢野地区で同じような課題を持つ仲間で話し合いを持ち、道路の問題や駐車場の問題まで小学校4校（菊水小学校、鶴越小学校、東山小学校、夢野小学校）が統廃合され、それに伴う登下校通学路の問題と、数多くの問題がある中で具体的に活動するためには、行政側にオブザーバーとして出席していただき、9月5日に第1回目の会合をもち、その後、何回も会合を重ね、北西部の4地域が一緒に新組織を立ち上げる必要があるのではとの意見があり、その方向でまとまって行くことになりました。

その後も会議を重ね12月1日に設立準備委員会で住民相互の絆をふかめ、安全で安心な暮らしが出来、賑わいのあるまちづくりにと上記小学校4校区を区域とする「兵庫区北西部まちづくり協議会」として正式に立ち上げることになりました。

そして、兵庫区民まちづくり会議が中心となって毎年行っている歴史花回道ウォークの今年度の内容が、兵庫区北西部を対象に考えていると聞き、私達の新組織のPRや基礎づくりのため協力することになり、1月13日に協力していた準備委員会の皆さんと下見を行いました。

3月17日兵庫区北西部の魅力再発見・歴史花回道ウォーク実施に向けて、準備委員会で兵庫区民まちづくり会議・兵庫区役所との共催で実行することになりました。募集は前もって往復ハガキで希望者を募りましたところ、定員を大幅にオーバーしました。当日は9時より湊川公園・菊水公園で受付を行い、10時に菊水公園に集合して4班に分かれ出発しました。第1の休憩地烏原貯水池で歴史説明を聞き、第2の休憩地へ向けて出発、夢野背山の尾根を歩き緑を満喫し好い汗を流し、夢野大師福寿院で住職から説明を聞き、ひよどり展望公園と二つに分かれて昼食休憩をし、ひよどり展望公園では眼下に神戸の町並みを眺めながらの休憩でした。

夢野大師を出発し立江寺・氷室神社・熊野神社と歴史ある寺社を回り、それぞれ説明を聞きました。当日、最後の見学場所湊川隧道へ隧道内部を見学し、神吉会長の説明を聞き解散となりました。当日、隧道内でミニコンサートが行われるので聞かれる方はお残り下さいとアナウンスをして別れました。

好天に恵まれて全員無事故で終了しました。



苅藻川について

園田学園女子大学教授 田辺 真人

古代の日本語で、米に代表される穀物を稔らせる大地の靈力をヒと呼んだ。そのため、農地を潤す、その流域第一の川は、「ヒの川」と名づけられ、日野川、斐川、揖斐川、氷川などと記される川が各地にある。神話に言うハ岐（やまた）の大蛇（おろち）の棲んだ簸川（ひのかわ）の名についても、同様な語源が考えられている。播磨平野を潤す兵庫県下最大の加古川も、その上流を「ヒの上（氷上（ひかみ））」といい、平地部の神祭りの丘を「ヒの丘（日岡（ひおか））」というから、太古にヒの川と呼ばれたことが考えられる。

さて、神戸の地域では、長田区を流れる苅藻川をヒの川と呼んだ可能性がある。明治期の河川改修で東方から湊川が流し込まれてから、湊川との合流点から下流は新湊川と改称されて、苅藻川は合流点より上流だけの呼び名となった。さらに、上流、高取山麓の支流を檜川（ひかわ）というが、この「ヒの川」が苅藻川全体の古い呼び名だった可能性があるのである。落合重信氏は『地名に見る生活史』の中で「本来の苅藻川の名が新湊川によって上流に押し上げられたように、苅藻川の発生によって（檜川の名は）上流に押し上げられた」と説いている。

このように苅藻川は、下流の部分は新湊川と呼ばれるようになってその影が薄くなってしまった感がある。しかし、苅藻川は、平家一門の盛衰を軍記物語として描いた『平家物語』や14世紀に編纂された歴史物語である『増鏡』にも登場する古い地名である。古代からこの川の下流あたりで藻が刈られていたのであろう。また、苅藻川流域では、ところどころに弥生式土器も出土している。特に長田神社の境内からは中期、後期のものが大量に出土している。六甲山地と並行する大阪湾岸にはさまれた神戸の地で、和田岬の出っ張りの西は、一番平地の広いところである。つまり、苅藻川流域では早くから稻作がおこなわれ、その沿川に農耕社会が発展し、長い大きな田が開かれていった。『日本書紀』にはこの辺りに「長田」の國の名が記されている。

明治期の湊川の付替えがなければ、苅藻川は、他の表六甲河川と同じように湊川、住吉川、生田川、妙法寺川などとならぶ流域をもつ一つの河川として存在していた。この100年間、「庇を貸して母屋をとられた」状態になってしまっているが、今からでも元の河川名に復活するよう河川管理者の兵庫県に要望してみてはどうだろう。

湊川隧道について その6

湊川の付替えと藤田伝三郎について

佐々木 良作

湊川の付替えは明治10年頃から世論にのぼり始め、明治30年から事業が始まるまでの間、地元の多くの実業家が幾度か連名で付替え工事の着手を願い出ているが、その中心的役割を果たした人物が大阪の藤田伝三郎である。

藤田は、天保12年（1841）長州萩に生まれ、奇兵隊に加わり維新後は大阪に出て軍靴製造を主とする御用商人になり、西南戦争で巨額の富を築く。その後、鉱業、紡績業、鉄道など多角的事業経営に乗り出し、児島湾干拓を請負うなどして藤田組を一大財閥に育てる。

藤田と湊川の関わりは、藤田が明治20年6月に兵庫県知事宛に「湊川附換之儀御願」を申し出たことに始まるが、当時、藤田組は大倉組とともに琵琶湖疏水のトンネル工事を請け負っており、湊川付替えに必要なトンネル技術の裏付けはすでに持っていたであろう。また、今で言う社会基盤整備に対する先見性、公共土木工事を請負って利潤を得るといった経営手法なども持っていたであろうから湊川付替え事業の採算性については十分確信を得ていたにちがいない。明治29年頃から湊川付替えが神戸市議会でも議論されるようになり、発起人に東京の大倉喜八郎（大倉財閥の創立者）も名を連ねるが、藤田は多くの有力な実業家たちとの親交に加えて井上馨や渋沢栄一といった中央の政官界とも密接な人脈関係をもっていることも付替え事業の実現に大きな力になったと想像する。

一方、当時、関西を代表する数寄者・茶人として藤田伝三郎（香雪）の名前があげられる。藤田は多くの事業を好調に手がけながら膨大な美術品を精力的に収集していく。その動機は維新後の伝統文化の軽視、美術品の海外流出など国宝が散逸するといった当時の風潮に対する危惧心からとされている。藤田は、武者小路千家の茶の湯を学び、収集した茶道具で財界人を客に頻繁に茶席を持っており、数寄者としてのエピソードも残されている。

昭和29年（1954）に開館した藤田美術館には息子たちのコレクションも合わせた所蔵品のうち国宝9点、重要文化財50点を含む5000点の名品が収蔵されている。ちなみに、阪神閣には明治中期から戦後にかけて数寄者と称される財界人に小林一三（阪急電鉄創業者）、村上龍平（朝日新聞創立者）、加納治兵衛（酒造家）などがいる。彼らの収集した美術品は逸翁美術館、香雪美術館、白鶴美術館などに収蔵されている。

今日、こうした近代数寄者たちの遺産でもある茶入れ、茶碗などの茶道具はもとより仏教美術、絵画などの名品が収蔵、公開される場合は公的施設ではなく私的施設になっており、これら施設は日本の伝統文化、美術、工芸を将来に継承する重要な役割を担っている。その原点となった経営人、文化人としての顔を合わせ持つ当時の実業家たちの人物像にあらためて興味を覚える。

平成18年度の活動記録

！平成18年5月20日(土)

一般公開(試行) 13:00～16:00

場 所：湊川隧道内

内 容：「隧道内見学」、「パネル展示」、「レンガ販売」等

主 催：湊川隧道保存友の会 参加者：50名

！平成18年6月17日(土)

一般公開(試行) 13:00～16:00

場 所：湊川隧道内

内 容：「隧道内見学」、「パネル展示」、「レンガ販売」等

主 催：湊川隧道保存友の会 参加者：33名

！平成18年7月15日(土)

講演会・総会 10:00～12:00

場 所：新湊川河川防災ステーション内(新湊川ふれあい会館)

内 容：講演者 小野田 淑氏(鉄道総合技術研究所 情報管理部 主査)

演題 「鉄道トンネルの文化史—それは神戸から始まった—」

主 催：湊川隧道保存友の会 参加者：約70名

！平成18年7月15日(土)

一般公開 13:00～16:00

場 所：湊川隧道内

内 容：「隧道内見学」、「VIDEO上映」、「パネル展示」、「レンガ販売」等

主 催：湊川隧道保存友の会 参加者：59名

！平成18年7月23日(日)

第1回湊川隧道学習会 13:30～15:30

場 所：新湊川河川防災ステーション内(新湊川ふれあい会館)

内 容：「歴史が語る湊川(神戸新聞社)」、「佐々木版Q&A」、「近代土木遺産」等

主 催：湊川隧道保存友の会 参加者：5名

！平成18年8月19日(土)

一般公開 13:00～16:00

場 所：湊川隧道内

内 容：「隧道内見学」、「VIDEO上映」、「パネル展示」、「レンガ販売」等

主 催：湊川隧道保存友の会 参加者：144名

！平成18年8月19日(土)

第2回湊川隧道学習会 13:00～16:00

場 所：湊川隧道内

内 容：一般公開ボランティアとして参加学習等

主 催：湊川隧道保存友の会 参加者：6名

！平成18年8月27日(日)

第3回湊川隧道学習会 13:30～15:30

場 所：新湊川河川防災ステーション内(新湊川ふれあい会館)

内 容：「地域の現状と大震災・水害について」「明治18,19年の地図、大正7年の地図と現在の地図」「論文：論文名 湊川改修株式会社」「論文：震災と近代土木遺産調査」等

主 催：湊川隧道保存友の会 参加者：8名

！平成18年9月16日(土)

一般公開 13:00～16:00

場 所：湊川隧道内

内 容：「隧道内見学」、「VIDEO上映」、「パネル展示」、「レンガ販売」等

主 催：湊川隧道保存友の会 参加者：113名

！平成18年9月16日(土)

第4回湊川隧道学習会 13:00～16:00

場 所：湊川隧道内

内 容：説明ボランティア等

主 催：湊川隧道保存友の会 参加者：5名

！平成18年9月17日(日)

第5回湊川隧道学習会 13:30～15:30

場 所：新湊川河川防災ステーション内(新湊川ふれあい会館)

内 容：「歴史が語る湊川(神戸新聞社)」、「湊川隧道各種資料等」

主 催：湊川隧道保存友の会 参加者：6名

！平成18年10月1日(日)

新湊川まつり、一般公開 9:00～16:00

場 所：新湊川河川周辺、東山小学校講堂、湊川隧道内

内 容：「西山芳一トンネル写真展および講演会」、「隧道内見学」、「VIDEO上映」、「パネル展示」、「レンガ販売」等

主 催：新湊川を守り育てる会、湊川隧道保存友の会 参加者：357名

！平成18年10月21日(土)

近代化遺産全国一斉公開 13:00～16:00

場 所：湊川隧道内

内 容：「隧道内見学」、「VIDEO上映」、「パネル展示」、「レンガ販売」等

主 催：湊川隧道保存友の会 参加者：80名

！平成18年11月19日(日)

神鉄ウォーク、一般公開 11:00～16:00

場 所：湊川隧道内

内 容：「隧道内見学」、「VIDEO上映」、「パネル展示」、「レンガ販売」等

主 催：湊川隧道保存友の会 参加者：251名

！平成18年12月16日(土)

一般公開 13:00～16:00

場 所：湊川隧道内

内 容：「隧道内見学」、「VIDEO上映」、「パネル展示」、「レンガ販売」等

主 催：湊川隧道保存友の会 参加者：57名

！平成19年3月17日(土)

ミニコンサート、歴史花回道ウォーク、一般公開 13:00～16:00

場 所：湊川隧道内

内 容：「隧道内見学」、「パネル展示」、「レンガ販売」等

主 催：湊川隧道保存友の会、兵庫区まちづくり協議会

ミニコンサート全体コーディネート：(財)建設工学研究所 櫻井春輔

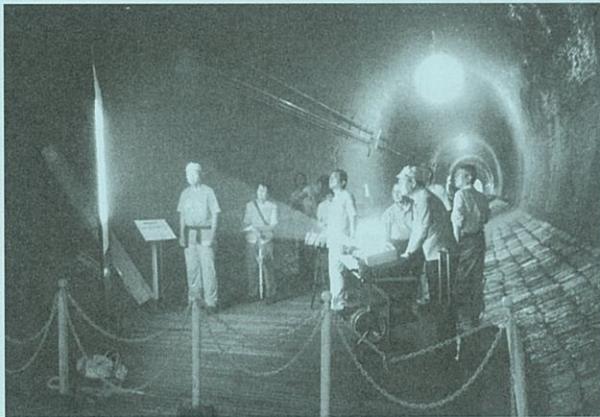
光と音のコラボレーション企画：神戸大学工学部建設学科 芥川研究室(4月より市民工学科)

光と音のコラボレーション装置製作：神戸大学工学部電気電子工学科 塚本研究室

参加者：264名

! 平成19年4月21日(土)
一般公開 13:00~16:00

場 所：湊川隧道内
内 容：「隧道内見学」、「VIDEO上映」、「パネル展示」、「レンガ販売」等
主 催：湊川隧道保存友の会 参加者：70名



平成18年度 一般公開

! 平成19年5月19日(土)
一般公開 13:00~16:00

場 所：湊川隧道内
内 容：「隧道内見学」、「VIDEO上映」、「パネル展示」、「レンガ販売」等
主 催：湊川隧道保存友の会 参加者：45名

! 平成19年6月16日(土)
一般公開 13:00~16:00

場 所：湊川隧道内
内 容：「隧道内見学」、「VIDEO上映」、「パネル展示」、「レンガ販売」等
主 催：湊川隧道保存友の会 参加者：63名

! 平成19年7月15日(日)

湊川隧道保存友の会・総会・講演会予定 10:30~12:30

場 所：新湊川河川防災ステーション内(新湊川ふれあい会館)
内 容：講演者 森本政之氏(神戸大学大学院工学研究科長・教授)
演題「音を科学する—暮らしの中の騒音と音楽ホールの響き—」
主 催：湊川隧道保存友の会

平成19年度の行事予定

一般公開

場所

湊川隧道内

内容

「湊川隧道内見学」、「パネル展示」、「レンガ販売」等

主催

湊川隧道保存友の会

日時

平成19年 7月21日(土) 13:00~16:00

平成19年 8月18日(土) 13:00~16:00

平成19年 9月15日(土) 13:00~16:00

平成19年10月20日(土) 13:00~16:00

平成19年11月17日(土) 13:00~16:00

平成19年12月15日(土) 13:00~16:00

平成20年 3月15日(土) 13:00~16:00

なお、9月15日と11月17日に開催します一般公開に合わせて、ミニコンサート等のイベントを企画中です。企画案をお持ちの方は事務局までご連絡ください。